

自信を喪失してしまった韓国

すが 須賀 つとむ 努

コラムニスト・アジアウォッチャー

日中関係同様にここ2年ほど冷え込んでいる日韓関係。一時の韓流、K-POPブームも完全に過去のものとなり、韓国語を勉強する人は激減、韓国を訪れる日本人も減っていると聞く。一方アジアでは依然として韓国人観光客を多く見掛けるものの、何故か昔より大人しいと感じている。それは単に中国人観光客に圧倒されているためだからなのだろうか。真冬の韓国を歩いてみた。

誰もが不景気だという街

筆者が前回ソウルを訪れたのは2013年の8月。正直、この時すでに韓国経済はかなり下り坂だと言われていたが、実際に行ってみると東京などに比べると、はるかに活気があり、『本当に景気が悪いの?』と聞きたくなるほど元気だった。その理由をある人は『韓国人は見栄を張るので、クレジットカードを切り、自転車操業している。これが内需の真相だ』と語り、危惧を示したのを覚えている。

ところが今回行ってみると、もちろん真冬だというせいもあるとは思いますが、街全体が実に重苦しく、人々に覇気が感じられなかった。円安の影響で円換算での物価はかなり高くなったと感じられたが、実際にモノの値段も上がっているようで、買い物している人も、『出来るだけ節約している』と、財布のひもは固かった。コーヒーショップのコーヒーは日本よりかなり高く驚いた。

本来観光客で賑わうはずの^{インサドン}仁寺洞のある店主は、『アジア全体も不景気なのか、売上は前年の半分』と悲しげに首を振る。特に日本人は竹島問題以降激

減、今は中国人頼みだが、その消費力も以前より落ちていると見ていた。

更には『韓国では中産階級

が消滅した。金持ちと貧乏人しかいなくなった』と強調する韓国人市民も経営者もいた。そして中産階級が没落した直接の引き金、消費が落ち込んだ理由が『セウォル号事件』後の心理的影響であると端的に説明してくれた。

セウォル号事件の衝撃

何故韓国経済に元気がないのか。ソウルで聞いた全ての人が『昨年4月に起きたセウォル号事件で自粛ムードが広がり、イベントなども一切中止、元々弱含みだった消費者マインドは完全に冷え切った』と言い切る。そして同時にこの事件が乗員乗客295名もの命を奪った大事故であるだけでなく、ましてや単なる船の沈没事故ではなく、韓国社会の本質的な体質、政府の対応のまずさなど、多くの問題を投げかけ、一般の韓国国民は『自分たちの目の前で若き高校生たちを救い出すこともできずに死なせてしまった』ことに強い衝撃を受け、その結果『自分たちの国は所詮、この程度の国なんだ』といった、自信喪失状況が蔓延したという。最近起きた大韓航空の副社長の件などは、この事件の余波として、財閥



写真1 釜山 国際市場の屋台



撮影：佐渡多真子

【須賀努氏のプロフィール】

東京外語大中国語科卒。
金融機関で上海留学、台湾2年、香港通算9年、北京同5年の駐在を経験。
現在は中国を中心に東南アジアを広くカバーし、コラムの執筆活動に取り組む。



や政府の対応への批判が充満した結果、あれほどの騒ぎになったのではと現地では見られている。

実は筆者は1990年代に韓国企業を数年担当し、貸出業務を行ってきた。日本では『韓国人は粘り強い』という評価だったように思うが、実際に彼らと接してみると、『熱しやすく冷めやすい、まるでラテン民族のようだ』という印象が強く残っている。金融の世界ではブラジル、アルゼンチンなどラテン諸国は景気が良い時はどんどん借入れ、いざ不景気になるとすぐに『お手上げ（債務不履行）』という苦い経験がある。筆者の感覚では韓国もアジア通貨危機後に国全体が実質的に破たんした。それから15年以上が過ぎたが、最大の自信喪失が襲ってきている。これはかなり危ないシグナルだと感じられる。

財閥偏重への不満

この2年、日本は中国と尖閣、韓国と竹島の問題を抱え、安倍政権は厳しい対応を迫られてきた。その間、韓国はこれまで以上に中国への接近度合いを強め、急速に傾斜していったが、果たしてそれは韓国にメリットをもたらしたのだろうか。

中国人来訪者は昨年600万人以上となり、彼らの購買力は確かにパワフルで実に魅力的な存在だ。今回は南部の釜山と慶州も訪ねてみたが、漢字の看板がどんどん増えており、お蔭で道に迷わず助かった。日本人のためには導入されなかった漢字、ここでも中国パワーを見せつけられた。港町プサンの市場を歩いていると、小雨の降る中、懸命に屋台で働くおばさんたちの姿が見られたが、その拙い中国語を聞くと何とも言えない哀愁さえ感じられた。

だが韓国が中国に急接近した一昨年から、中国の経済成長は鈍化し始めた。これまでのような高度成長期



写真2 蚕室にある第2ロッテワールドタワー

であれば、韓国企業もその波に乗り、中国で稼げただろうが、そのような時代は終わり、中国頼みでは厳しい状況になっている。中国から撤退を余儀なくされているのは韓国企業も同じだ。既に韓国家電が市場を支配し、成功を収めたインドをはじめアジアシフトを強めてきた頼みの大手財閥も、例の大韓航空のナッツ回航事件だけでなく、次々と事件が明らかになっている。実際、蚕室^{チャムシル}にある第2ロッテワールドタワーはビルに複数の亀裂があることが報じられ、我々が訪ねた時も大規模施設の中に客は極めて少なかった。経営的にも厳しい状況に追い込まれている、と言わざるを得ない。

ある韓国人企業経営者は『財閥企業やその社員が事件を起こしても報道機関のスポンサーだから報道されないことが多い。そんな状況に国民が猛反発し始めた』といい、今はテレビや新聞が隠してもネットで事件が流出するので、抑え切れないと事情を話す。4年前の日本の震災後の状況にどことなく似ている韓国。『日本はいいよな、アベノミクスがあるから』と言われ、ドキッとしてしまった。人気を失った朴大統領がどんな手を打つのか、注目したい。